

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和7年11月

1 大島地域 食育・地産地消推進研修会を開催

10月28日、「大島地域食育・地産地消推進研修会」を大島地域かごしまの“食”交流推進協議会と大島本島地区農産物地産地消推進協議会の共催で実施し、協議会の構成機関・団体等の関係者65名が参加しました。奄美市地方公設卸売市場と株式会社グリーンストアが地産地消の推進に関する取り組み状況等を紹介し、研修参加者と地場野菜の生産、流通、消費について意見を交換しました。農政普及課では、研修会で出された意見等を参考に、地場野菜の生産、消費の拡大を支援していきます。



食育・地産地消推進研修会の様子

2 さとうきび大規模経営体の法人化に向けた支援を実施

11月5日、喜界町役場において、さとうきび大規模経営体2戸に対し、法人化に向けた支援を行いました。かごしま農業経営・就農支援センターの農業経営スペシャリスト（税理士・社会保険労務士）を招き、法人化のメリット・デメリットや雇用確保の留意点等について説明を受けました。大規模経営体からは、消費税や雇用者への雇用保険等に関する質問もあり、法人化に対する理解を深めました。今後も大規模経営体の経営安定化のため、法人化に向けた支援を継続していきます。



法人化支援の様子

3 さとうきび生産振興大会で大規模経営体の省力化事例を紹介

11月17日、喜界町自然休暇村において、さとうきび生産振興大会が開催され、農政普及課は機械化による省力化体系の実例として、単収の高い大規模経営体の実態調査結果を紹介しました。大型機械による作業時間の縮減や、株出しの株揃えや中耕は省略するが、単収が低下しないよう新植前の有機物投入や深耕等による土づくりの徹底などの事例を示しました。高齢化により生産者の減少が続く中、大規模経営体の育成はさとうきび産地維持のために必須であり、今後も支援を継続していきます。



さとうきび生産振興大会の様子

4 さとうきび収穫にかかるコストについての勉強会を開催

11月17日、喜界町自然休養村で開催されたさとうきびハーベスタオペレーター研修会にて、昨年度から喜界町ハーベスタ連絡協議会が中心となり取り組んできた、さとうきび収穫にかかるコスト試算の結果と傾向について、農政普及課が紹介しました。コストは9組織間で最大約2倍の差があり、収穫規模と収穫量、単収が大きく影響することを説明し、組織の経営安定に向け毎年製糖期終了後に試算を繰り返すことを呼びかけました。今後も収穫コストの理解促進に向けた支援を行います。



ハーベスタオペレーターの様子

5 製糖期に向けてオペレータ労働安全研修会を開催

11月17日、喜界町自然休養村において、製糖開始を前に、さとうきびハーベスタオペレーターを対象とした労働安全研修会を開催した。鹿児島県農業開発総合センター普及情報課から農作業事故防止対策について講義があり、収穫期の事故を減らすためには、補助者との連携強化、雑草管理等のほ場整備が重要であることを学びました。その後、屋外において地元整備工場の社員が実機を用い、修理の多いポイントを紹介しました。事故のない製糖期に向けて、安全意識を高める機会となりました。



労働安全研修会の様子

6 奄美の担い手が瀬戸内町でのセミナーに集う

11月19日、農政普及課は瀬戸内町で奄美大島・喜界島の認定農業者等25名を参集し「奄美農業担い手セミナー」を開催しました。セミナーでは農政普及課の病虫害担当が病虫害の専門的な知見や両島での事例について講演し、また喜界町のさとうきび経営者からは「地域と仲間と広げるさとうきび」と題して、地域及び仲間との連携で自らのさとうきび経営が発展してきたという事例が紹介されました。情報提供を含め参加者の反応は好評で、今後もセミナーを続けていきたいと考えています。



奄美農業担い手セミナーの様子